

# 奈文研

ニュース

No.85

June 2022

NABUNKEN NEWS



独立行政法人 奈良文化財研究所  
奈良文化財研究所  
〒790-8517 奈良県生駒郡三郷町中-1  
https://www.nabunken.go.jp

## 平城宮第一次大極殿院大極門(南門)の竣工

本年は平城宮跡が史跡指定100周年となる節目の年にあたります。この節目となる年に、第一次大極殿院南門「大極門」の復原工事が完了しました。復原工事は2017年秋から始まり、今年3月19日に竣工式典が開かれました。

大極門は、平城宮の正門である朱雀門(1998年復原)、第一次大極殿(2010年復原)に続き、平城宮跡の中心区画のなかでは三つ目の主要建物の復原となります。儀式の際には天皇も出御した、奈良時代前半の平城宮の中核である大極殿院にふさわしく、間口約22.1m、奥行約8.8m、高さ約20.0mの入母屋造・重層門に復原されました。

この復原事業の主体は国土交通省ですが、1973年の発掘調査以来、奈文研では建築史学・考古学・文

献史学等の多数の研究者が、調査・研究の成果をもとに考証を重ねてきました。特に大極門の復原案は、発掘調査で検出した基壇や階段の痕跡等の情報をもとに、法隆寺中門の基本構造を参考にして作成しました。また、各所の飾金具や瓦等細部の復原にも、所外の研究者も交えた精緻な検討を繰り返してきました。長年蓄積してきた成果がこの復原大極門には結集しているのです。また、奈文研としては写真撮影等の復原工程記録やそのアーカイブ化にも協力しており、今後も重要なデータの保存・継承に努めていきます。

大極門復原で用いた覆屋は東側に曳屋し、今年度から始まった東楼の復原工事でも使用しています。奈文研として今後の復原事業にも引き続き協力していきます。

(企画調整部 岩戸 晶子)

第一次大極殿院復原事業ホームページ

<https://www.heijo-park.jp/about/fukugen/>



竣工した大極門

## 発掘調査の概要

### 石神遺跡東方の調査（飛鳥藤原第209次）

奈良県明日香村に位置する石神遺跡は、明治35年（1902）および翌36年（1903）に須弥山石・石人像が発見された地として知られています。奈良文化財研究所は、昭和56年（1981）以来、21回以上にわたる発掘調査をおこない、7世紀を中心に建物、石敷広場、石組池、井戸、石組溝等の施設を配した遺跡であることをあきらかにしてきました。遺跡の時期は3時期にわかれ、内部の建物は時期ごとに何度も造り替えられたことも判明しています。

一般的に、石神遺跡といえば、須弥山石・石人像や石敷広場、新羅土器や東北系黒色土器等の出土から、「日本書紀」に記される齊明朝の饗宴施設として注目されがちですが、近年の調査研究により、飛鳥浄御原宮期の具体像もあきらかになってきています。また、石神遺跡の東側を推古朝小墾田宮の推定地とする説も示されています。

このように、石神遺跡については多くの研究成果の蓄積がありますが、遺跡のさらなる解明のため、石神遺跡とその周辺における土地利用の実態解明を目的に、継続的な調査をおこなうこととしました。初年度となる今回は、第1次調査区のすぐ東に301㎡

の調査区を設けて調査を実施しました。第1次調査は昭和56年（1981）に実施していますので、この地区での発掘は実に40年ぶりとなりました。

調査の結果、飛鳥浄御原宮期の掘立柱塼と溝を50mにわたって検出しました。掘立柱塼の柱穴は、一辺70～80cm、深さ45～70cmの隅丸方形をしています。計24基の柱穴が約2.1mの間隔で東西一列に並びます。この塼の南に並行して延びる東西溝は幅2m以上、深さ約0.6mで、石神遺跡のなかでも大型の溝が掘られていたことがわかりました。この塼と溝は西の第1次、第3次調査区から続くもので、東はさらに調査区外へと延びています。今回の調査で、実に85m以上もの長大な区画施設が石神遺跡南端にあったことが判明しました。

これらのほかに、調査区東半では弥生時代の土坑1基、調査区中央と西端で古墳時代中期とみられる竪穴建物4棟、斜行溝1条を確認しています。また、調査区東端では、前述した飛鳥浄御原宮期の掘立柱塼よりも古い掘立柱建物も確認したほか、籾の羽口や鉄滓、炭を多く含む土坑が点在しており、近隣の金属器生産が推定されます。今後、整理作業を通じてその性格を詳しく検討していきますが、少なくとも弥生時代以降、この地が継続的に利用されていたことを示す成果を得ることができました。

今回の調査により、飛鳥浄御原宮期の石神遺跡は従来考えられていた範囲よりもさらに東へ広がることがわかりました。今回判明した長大な区画施設の内側には、どのような施設があったのでしょうか。石神遺跡最盛期とされる齊明朝の様相や、南に位置する飛鳥寺との関係等、周辺の調査が進んだ今だからこそ解明すべき課題は多いといえます。石神遺跡東方の調査は始まったばかりです。今後の調査にご注目ください。（都城発掘調査部 松永 悦枝）



調査区全景（東から、道路を挟んで画面上が石神遺跡第1次調査区）



掘立柱塼の柱穴と東西溝の堆積状況（西から）

### 法華寺境内の調査(平城第645次)

今回の調査は、消火設備の改修にともなうもので、2022年1月17日から2月9日まで実施しました。調査地は、本堂の北側(北区・約2.4m)と南側(南区・12m)の2カ所です。

このうち南区の東北隅では、2003年の発掘調査(第363次)でみつかった古代の掘立柱建物の柱穴を再検出しました。南区東南隅付近にも同じ建物の柱穴があると予想されましたが、残念ながら今回の調査区内ではみつかりませんでした。

代わりに東南隅では、池の一部とみられる落ち込みを確認しました。寛政3年(1791)刊の『大和名所図会』によると、現在の護摩堂を取り巻く池は、かつて鐘樓の北側まで大きく広がっており、これまでの発掘調査で、その岸と推定される遺構がみつかりました。今回の落ち込みも、かつての池の西北岸にあたりとみられます。

このほか、古代の瓦が多量に廃棄された土坑がみつかりました。一緒に出土した土器の年代観から平安時代前半の遺構とみられ、周辺の瓦葺建物の修理や廃絶に関わる可能性があります。

小規模な調査でしたが、近世の景観復元や平安時代の様相解明につながる、重要な情報を得ることができました。(都城発掘調査部 桑田 調也)



南区全景(北西から、奥が鐘樓、右手が護摩堂)

### なぶんけんチャンネル発掘ドキュメンタリー

2021年度も新型コロナウイルスの猛威はとどまるところを知らず、寄せては返す波のように、流行の拡大と沈静化を繰り返しました。

都城発掘調査部平城地区では、従来のような発掘調査の現地説明会が開催できない場合の代替策として、また、感染拡大防止のための人流抑制策の一環として、YouTubeなぶんけんチャンネルによる発掘調査ドキュメンタリーを制作し、公開してきました。

実際に発掘調査を担当する研究員がビデオカメラを片手に撮影をおこなっています。様々な作業風景や悩みながら掘り進める姿が映し出され、発掘調査の様子がリアルに伝わってくると思います。動画撮影や編集作業には不慣れな部分もありますが、その点は寛容にご視聴いただければ幸いです。

これまで公開した動画は、最新の平城宮や興福寺の発掘調査をはじめ、過去の調査を紹介したものもあります。これまでは、なかなかみる事ができなかった発掘調査の舞台裏に興味を示してくださる視聴者もいらっしやいます。まだご覧になったことがない方も、ぜひ奈文研ホームページを開くと出てくる「なぶんけんチャンネル」のバナーをクリックするか、インターネットで「なぶんけんチャンネル」と検索してみてください。

コロナ禍は、我々の研究活動、特に講演会や展覧会、現地説明会等、一般の方々と接する活動をいちじるしく阻害しました。いっぽうで、YouTubeやオンラインでの動画配信など、新しい情報発信のあり方を考える良い機会を与えてくれました。今後もYouTubeに限らず、現代社会のニーズに応える情報発信にチャレンジし、たくさんの方々に発掘調査の成果を、より身近に楽しんでいたいただけるよう努めてまいります。(都城発掘調査部 神野 恵)



YouTubeにて公開中の興福寺の発掘ドキュメンタリー



高松塚古墳出土品 (重要文化財)



大刀の山形金物 (唐草走獸文透彫金具) ※原寸の2倍



棺の飾金具 (金銅製円形金具) 外面 (左) と内面 (右) ※原寸大



円形金具のX線写真 ※原寸大  
金具の縁に花卉をあらわす切り込みがあるのがわかります

### 高松塚古墳の出土品

高松塚古墳壁画が発見された1972年の発掘調査で出土した資料は、1974年に重要文化財に指定され、飛鳥資料館で保管・展示公開されてきました。石室内およびその周辺からは、海獣葡萄鏡、銀製刀装具、玉類等の副葬品とともに、漆塗の木棺片やその飾金具、釘類が出土しています。

壁画発見50周年を迎えるにあたり、出土品についてあらためて詳しく再調査をおこなったところ、3本の小釘が打ち付けられた円形の棺金具全6点のうち、1点に痕跡的ながら花卉を表現したわずかな切り込みがあることがわかりました。高松塚古墳の近隣に所在するマルコ山古墳やキトラ古墳では、同様に3本の小釘をもつ花卉形金具が出土しており、以前から関連性が指摘されてきました。今回、1点のみながら、花卉の表現がみつかったことで、高松塚古墳の円形金具も花卉形金具の流れを汲むものであることが明確になりました。

科学分析の結果、円形金具の内面には、棺内面に塗られた水銀朱やその下地の鉛白が転写されて残っていることが判明しました。円形(花卉形)金具は棺内面に装着するもので、棺外面の飾金具を装着・固定するために通す軸棒の先端が内面側に突き出した部分を覆い隠す目的で使用された部品であることがあきらかになりました。壁画発見50周年の節目に、高松塚古墳の実像に迫る重要な成果を得ることができました。

(都城発掘調査部 廣瀬 覚)

## オンラインリレートーク「海外から見た日本考古学の魅力」全6回開催

国際遺跡研究室では2021年度にリレートーク・イベント「海外から見た日本考古学の魅力」を開催いたしました。2021年は新型コロナウイルス感染症拡大により、国内外での人的往来が困難な年となりました。「国際」を冠する我ら研究室も海外に渡航できない状況での活動となりましたが、この状況を逆手に取り、海外からみた日本の文化財や考古学の魅力とは何かみつめ直したいと考えました。いっぽう、日本考古学を専門とする世界各地の研究者からは日本を懐かしみ、一刻も早い再訪を望む声を数多く聞きました。海外からみた日本考古学の魅力を考える上で、彼ら・彼女らはもっとも教えを乞うべき存在といえます。そこで誕生したのが本企画です。

リレートークは全6回開催し、12名の走者(発表者)が参加に名乗りをあげてくださいました。回を重ねることに参加希望者が増え、申込数800名を超える大盛況の中イベントを終了することができました。

12名の走者が強調していたのは、一緒に研究をしたいということ、そして日本考古学を海外に発信してほしいということです。海外で日本考古学を学ぶ機会を決して多くはありません。共同研究や情報発信を通じて、海外の研究者が日本考古学を知るチャンスをもっともっと作ってほしいということでした。

今回の企画は私たち日本人が日本考古学の魅力を再発見する良いきっかけとなったと思っています。その再発見した魅力を海外へ還元していくことが私たちの次なるミッションになりそうです。彼らが繋いでくれたバトンを次の世代に託すため、国際遺跡研究室はこれからも世界と日本を結ぶ活動を続けていきたいと思っています。

(企画調整部 庄田 慎矢・村上 夏希)



第6回リレートークの様子

## 軒瓦三次元計測データベースの公開

近年、考古第三研究室では、平城京・藤原京出土軒瓦をSfM-MVS(Structure from Motion and Multi-View Stereo)という技術で三次元計測することにより、軒瓦の詳細な情報を取得し、それを考古学的研究に応用するための研究を続けています。

そしてこのたび、研究過程で取得した情報をもとに軒瓦三次元計測データベースを構築し、数ある平城京・藤原京出土軒瓦のうち、第一弾として奈良時代後半に製作された東大寺式軒瓦78点について、奈文研ホームページ上(<https://www.nabunken.go.jp/publication/>)に公開しました。

データベースでは、三次元計測による軒瓦の文様部分(=瓦当部)の画像と、出土品の全形について作成した三次元モデルの2種類を公開しています。

軒瓦の画像には、実物の色彩を表現したもの(Texture)と、純粋に形状だけを表現したもの(Surface)の2種類があります。三次元モデルは形状だけを表現したものを公開しており、ビューア上で自由に回転させることが可能ですので、様々な角度から軒瓦をご覧いただけます。解像度は粗くなりますが、拡大することも可能です。なお、三次元モデルは一部の型式のみの公開となっています。

このデータベースは随時公開数を増やしていく予定です。展示以外ではなかなかご覧いただく機会のない、実際に出土した軒瓦の詳細な状況を公開しておりますので、これを機会に、奈良時代の軒瓦について想いを馳せてみてください。

(都城発掘調査部 林 正憲)



軒瓦三次元計測データベース・トップページ

## 平城宮跡史跡指定100周年・奈良文化財研究所70周年を記念して

2022年は、平城宮跡が史跡に指定されて100周年、奈良文化財研究所は創立70周年です。

このメモリアルイヤーを皆様にご覧いただくため、100周年記念ロゴを制作しました。このロゴは「過去と現在が交感し、平城宮跡を未来へ届ける」というデザインコンセプトのもと、100周年の00を∞(無限)に重ね、地上と地中、過去・現在・未来を象徴するものです。

また、平城宮跡100周年を記念して「宮都」にちなんだキャラクターも誕生しました。その名も「キュートぐみ【宮都組】」。キャッチコピーは「平城宮跡や奈良時代、考古学にまつわる「？」が「!」となりますように」。馴染みのない、難しい印象のテーマ(出土遺物や遺構)をキャラでゆるく紹介することで親しみと関心をもってもらうことを狙っています。土器に描かれたサルや狐の妖怪「さるまるくん」、瓦の妖怪「かわらびつとちゃん」、円面鏡の妖怪「えんめん犬」など、個性豊かなキャラクターが平城宮跡を賑やかに盛り上げていきます。

メモリアルな今年は、関連企画も盛りだくさんです。ぜひ平城宮跡に注目して足を運んでいただき、奈良時代を身近に感じていただけたら幸いです。

(企画調整部 廣瀬 智子)



平城宮跡史跡指定100周年記念ロゴ



公式キャラクター キュートぐみ【宮都組】

## 筆順情報取得アプリケーション「ナゾルクン」

筆順は、文字理解のカナメです。この筆順情報を、市民の皆様のご助力により獲得するウェブアプリケーション「ナゾルクン」(<https://nazoru.nabunken.go.jp/enter.html>)を、2022年3月に公開しました。

本アプリケーションは、①筆順情報蓄積用(for Academic)と②古代文字体験・学習用(for Kids)の2バージョンを提供しています。

①筆順情報蓄積用(for Academic)ではオープンデータ化した古代文字画像を提供し、関心をもつ方々に画像上の文字を「なぞ」っていただき、広汎かつ大量の古代文字筆順情報を蓄積します。

②古代文字体験・学習用(for Kids)は(for Academic)の技術を応用し、文字画像を「なぞる」行為を通じて我が国の文字文化を体験しながら学習できるツールです。研究者が作成した筆順情報をもった画像を用意し、その情報との差に基づいて判定をおこなう機能を付与することで、体験性・学習性を確保しつつ、ゲーム感覚で古代の文字文化や歴史を学べるようになっていきます。

いずれもスマートフォンで利用可能なアプリケーションとして公開しており、研究への市民参加という新たな研究のスタイルを試みています。

現在は、奈文研所蔵木簡の文字画像のみですが、今後は他機関の歴史的な文字や歴史上の著名人の書状等も「なぞる」ことができるよう研究開発を進めています。今後の進展に、どうぞご期待ください。

(都城発掘調査部 馬場 基)



左：トップページ 右：Kids解説ページ

## 飛鳥資料館 第13回写真コンテスト「高松塚古墳」

1972年3月、奈良県明日香村にある高松塚古墳で壁画が発見され、日本中に驚きと感動をあたえてから今年で50年。そのメモリアルイヤーとなる今年度の写真コンテストは、作品テーマをズバリ「高松塚古墳」としました。

飛鳥の遺跡を代表し、その「顔」ともいえる高松塚古墳。現在、古墳とその周辺は公園として整備され、人々の憩いの場となっています。そんな高松塚古墳を撮るもよし、高松塚古墳や壁画にまつわる様々な物・事柄を撮るもよし、過去・現在・未来に思いを馳せた、皆様の自由な発想の作品を募集・展示します。(飛鳥資料館 濱村 美緒)

応募締切：2022年6月30日(木)必着／展示期間：2022年7月15日(金)～9月11日(日)

来館者投票期間：2022年7月15日(金)～8月21日(日)

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

休館日：月曜休館(7月18日・8月15日は開館、翌火曜日の7月19日・8月16日は休館)

※8月15日(月)は無料入館日

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問い合わせ：☎0744-54-3561



## 平城宮跡資料館 令和4年度 夏期企画展

### 「大地鳴動—大地の知らせる危機と私たちの生活—」

奈良文化財研究所は、2014年より「考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベース構築・公開」事業を、2019年からは、「考古・文献資料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析」事業<sup>※1</sup>を進めてきました。また、2020年10月には「文化財防災センター」が独立行政法人国立文化財機構に新たに創設され、「文化財を災害からまもる」ことで地域の社会財産と文化への防災・減災に取り組んでいます。

本展では、これらの事業を進める中で発掘調査によって発見された地震痕跡について、地層(土層)転写法によって保存した貴重な測り取り資料を展示します。地割れや液状化現象等、大地震の痕跡をとどめた地層を丸ごとご覧いただける、迫力のある展示になっています。

災害を完全に抑止することは現在の我々には叶いません。しかし、災害の発生や被災のメカニズムを解明することで、その被害を最小限にとどめることはできるでしょう。本物の地層が語る「歴史」を紐解き、鳴動する大地に生きる私たちの将来を考えるきっかけといただければ幸いです。

(企画調整部 下山 千尋)

※1：文部科学省による「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)」の支援を受けています。

会 期：2022年7月16日(土)～8月28日(日)

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)／休館日：月曜休館(休日の場合は翌平日)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/> お問い合わせ：☎0742-30-6753(連携推進課)



平城遺跡635次調査現場で発見された地震痕跡

## ■平城宮跡資料館公式Twitterアカウント・飛鳥資料館公式Twitterアカウントが開設されました

ぜひ、アカウントにアクセス・フォローしていただき、情報の共有・拡散にご協力をお願いいたします。



平城宮跡資料館  
(@NABUNKEN\_PR)



飛鳥資料館  
(@ASUKA\_HM)

## ■ 記録

### 飛鳥資料館 ミニ展示

4月22日(金)～5月22日(日) 3,268名

「飛鳥資料館に寄贈された瓦一瓦の花咲く飛鳥資料館—」

### 平城宮跡資料館 春期特別展

4月29日(金)～6月12日(日) 7,893名

「未来につなぐ平城宮跡—保存運動のあけぼの—」

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>

Eメール koho\_nabunken@nich.go.jp

発行年月 2022年6月